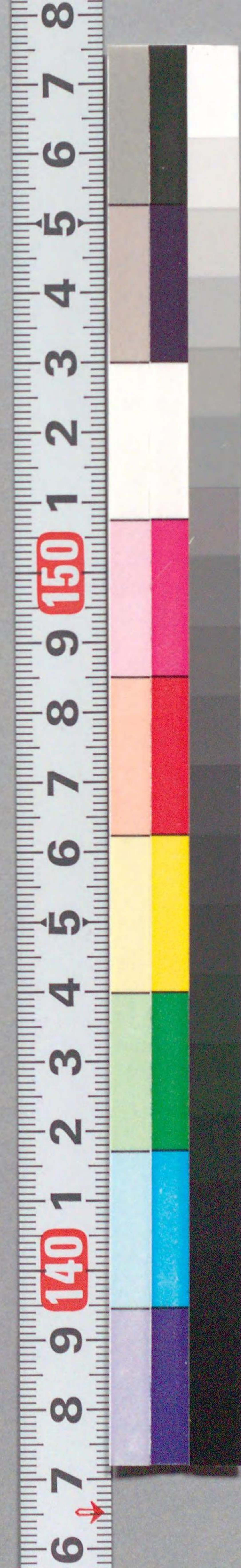


国立国会図書館 花の春上手談義 2巻 208-644



ガラス使用

序
 趣向と讀み其妙と云ふは
 一作して新板の去不存あるも
 かりしゆれ時あたりにて
 是るも大なる終も
 於板ありしゆれ時あたりにて



てり茶やしのが考大茶あてをとり
新らしきもまけきしはよあね
年々歳々花お似松へ常盤乃るま
りも整らぬ春の御伽もと葛飾乃
翁静観和尚の下手法或ハ在来
讀本ありよきふりをも早中うね
し手があやうぐもあつりましくうねが
はうらよ手よぬきみあぐまては

うらよ賣りのよむの美上手法我を題と

うらよ美

魚笑述



附言

魚笑子が筆すきと情長子れ蒙世風の
画圖をんごののとれ子様ゆ濁りすきと
此鼎負と松の肉より糖中りおる百をね
きり筆とつらふこと成は少許を
文化



寅歲新板目錄奉御覽入帳

鴉カ通風伊勢者詰車ツツ 藝者五人娘ウシノメ 上下

道樂ミチガク 早出來ハヤデ 車クルマ 地獄沙汰金湯ジゴクサタカニユ 上下

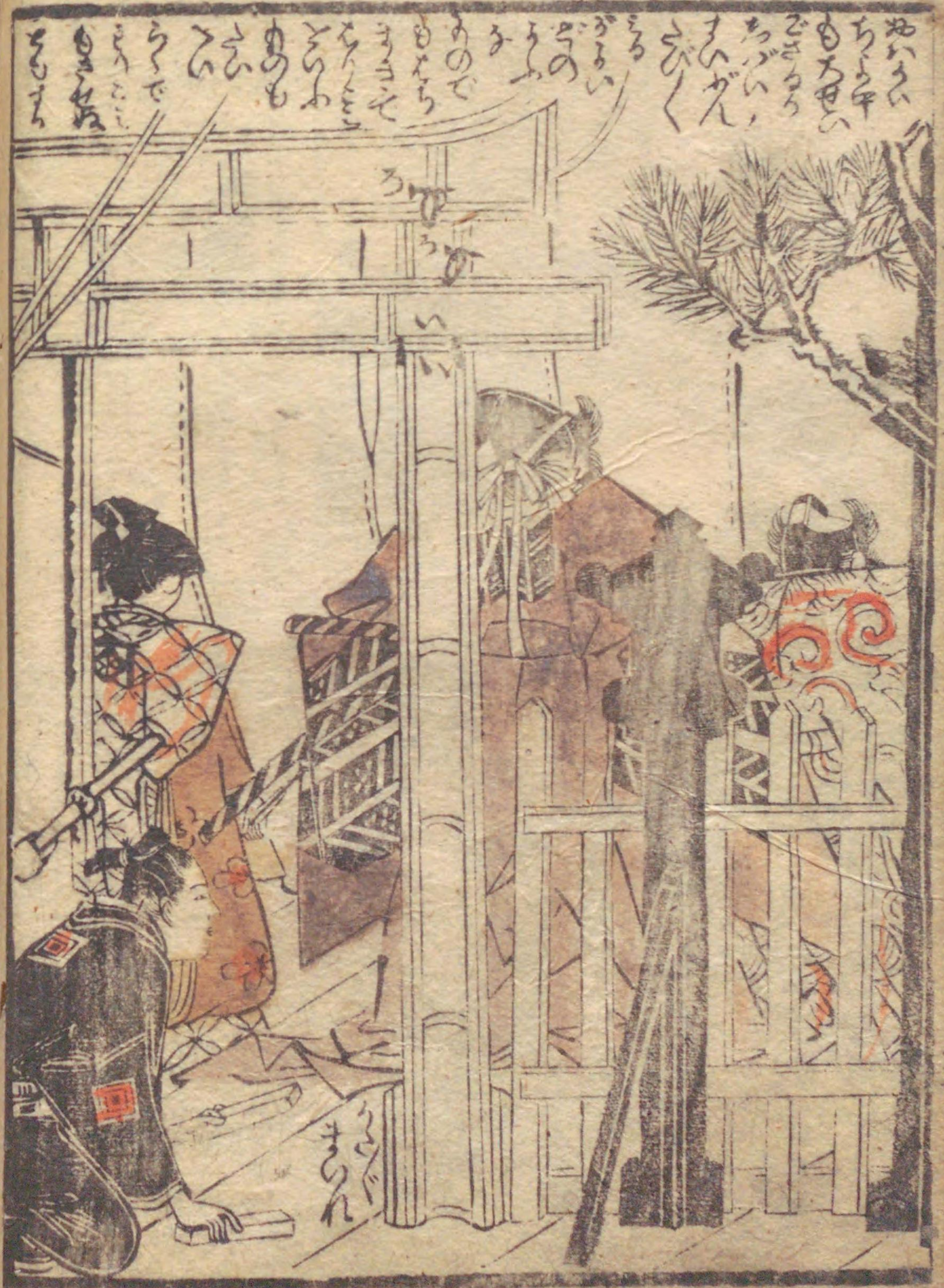
樂ガク 富多敷奇砂車フタシキサマクルマ 豆男浮見物マメオトウキモノ 袋入

歌討梅と櫻車ウタウチウメトウツギクルマ 上手談義ウツマシタンギ 袋入

金持曾我カネモチソノヱ 袋入 作者サクラシ 通河ツウカ 長笑ナガシラシ

進シノブ 永壽堂エイジュドウ 西村屋與八版ニシムラヤヨシヤチハツ









小つらうも天上
 天下てんじやう
 ちもまのひり
 だんじやうとよ
 すと百あやうと
 りりまのま
 ぬんげんげん
 とやまのま
 まことま
 いえぞとこれ
 るとま
 ますつらと
 うれい
 うれい
 わい
 ぬん
 めん
 めん



小つらうも天上
 天下てんじやう
 ちもまのひり
 だんじやうとよ
 すと百あやうと
 りりまのま
 ぬんげんげん
 とやまのま
 まことま
 いえぞとこれ
 るとま
 ますつらと
 うれい
 うれい
 わい
 ぬん
 めん
 めん





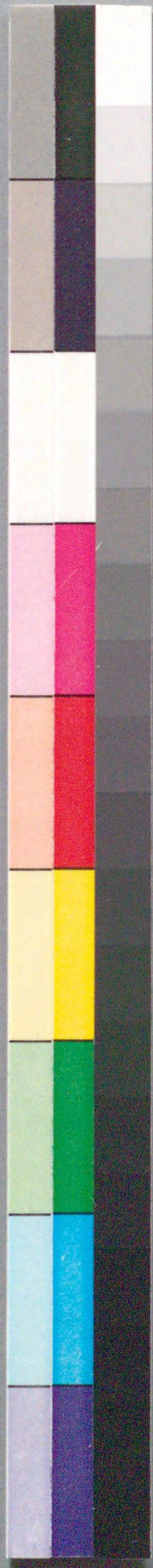
Handwritten text in kuzushiji script, likely a dialogue or narrative passage, located above the illustration on the left page.



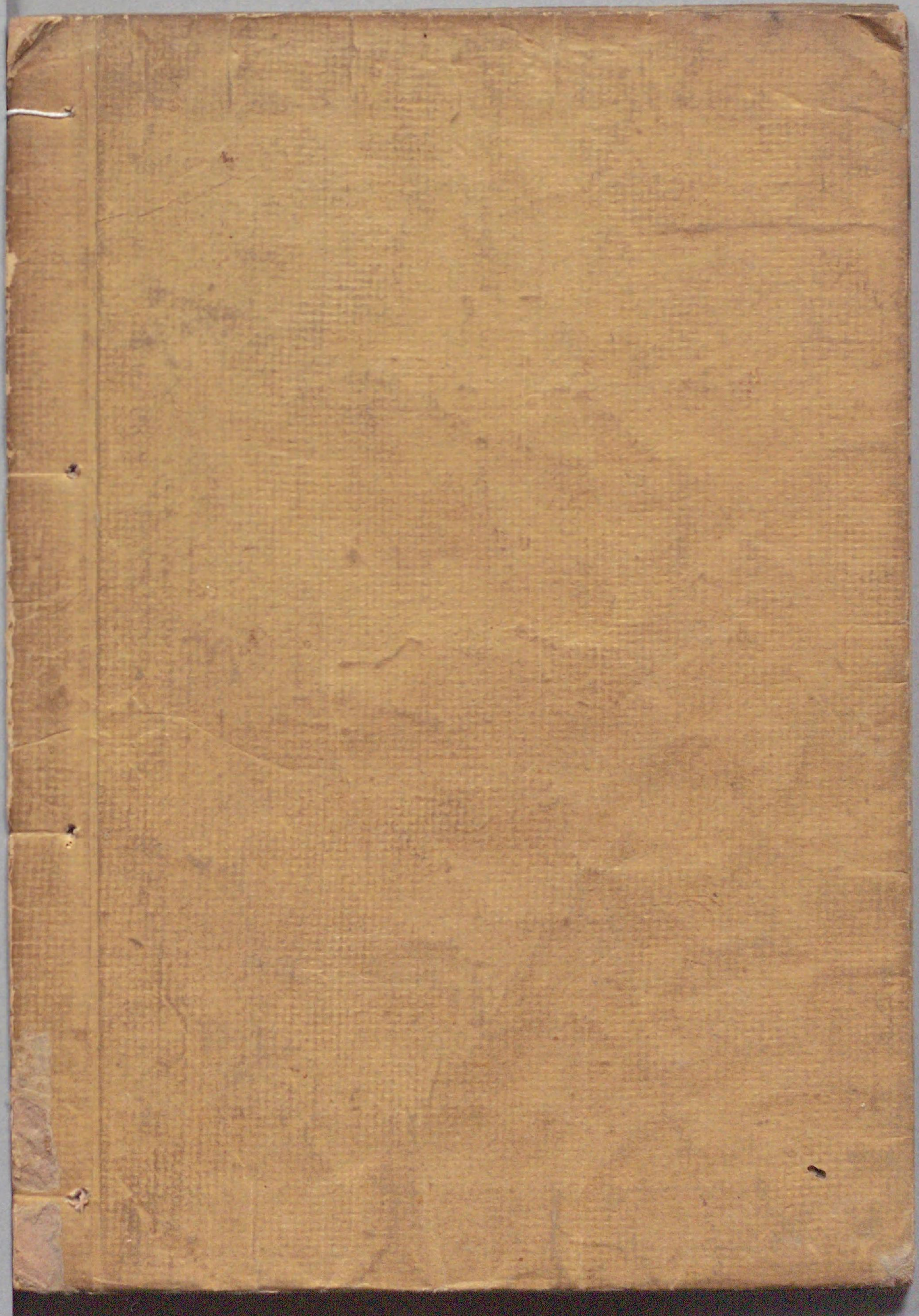
Handwritten text in kuzushiji script, likely a dialogue or narrative passage, located above the illustration on the right page.







国立国会図書館 花の春上手談義 2巻 208-644



ガラス使用

